

樹齢360年を越える 国の天然記念物「盛岡石割ザクラ」



盛岡地方裁判所の構内にある大きな花崗岩の割れ目に生える、直径約1・35m、樹齢が360年を超えるといわれるエドヒガンザクラ。
昭和7年(1932)に盛岡地方裁判所の火災の際、石割桜も一部類焼したが、翌春には再び花を咲かせた。現在は毎年開花を続け、市民観光客に親しまれている。

この場所は盛岡藩主の分家にあたる北監物(きたけんもつ)の庭園であったといわれ、明治初期には「桜雲石(おううんせき)」と呼ばれていたと伝わる。大正12年(1923)指定。石割ザクラは、火災の際に身を挺して守った庭師、藤村治太郎・益次郎親子の子孫「豊香園」が今もその保護に奉仕している。

(もりけん本スパー ver.2より)

